凡例……7
序章……9
一　「鎖国」研究の問題点と課題……9
二　先行研究の整理と本書の目的……12
三　本書の構成……15

第Ⅰ部　東アジア世界におけるスペイン

第一章　イベリア両国の共生・協和　―ヴィリヤロボス艦隊の事例から―……22
はじめに……22
第一節　サラゴサ条約とヴィリヤロボス艦隊の派遣……24
第二節　ヴィリヤロボス艦隊の使命……26
第三節　フィリピン現地住民との接触……28
（一）ヴェギンダナオ島（ミンダナオ島）　29
（二）サランガン島（サランガニ島）　34

(三) モルッカ諸島へ 38
第四節 モルッカ諸島における攻防と投降の決断……40
(一) ジャイロロ島（ハルマヘラ島） 40
(二) ティドレ島 41
(三) 投降の決断 43
おわりに……46
第二章 ルソン総督府の対日外交方針 ―一七世紀初頭日本関係文書の検討―……53
はじめに……53
第一節 断交前の日本関係文書（一六〇〇―一六一一年）……56
(一) 交渉の開始 56
(二) 友好関係の維持 58
(三) オランダ勢力進出の影響 67
第二節 断交期の日本関係文書（一六一九―一六二八年）……73
第三節 断交後の日本関係文書（一六二八―一六二六年）……78
おわりに……88
第三章 日本宣教拠点ルソンの成立……99
はじめに……99

第一節　スペイン系托鉢修道会の日本進出過程……100
第二節　働き手不足の問題……105
第三節　長崎キリシタンの嘆願文書……112
第四節　日本人司祭の養成……120
おわりに……129

第Ⅱ部　日本―ルソン交流の展開

第四章　豊臣政権のルソン外交　―小琉球宛朱印状の検討―……140
はじめに……140
第一節　天正十九年九月十五日（一五九一年一一月一日）付朱印状……141
第二節　天正二十年七月二十一日（一五九二年八月二八日）付朱印状……146
第三節　文禄二年十一月二日（一五九三年一二月二四日）付朱印状……153
おわりに……161
第五章　ルソン貿易におけるキリシタン宣教師の役割……172
はじめに……172
第一節　豊臣秀吉政権期のルソン渡航制度……173
第二節　徳川家康政権期のルソン渡航制度……181

第三節　島津義弘のルソン貿易……185
おわりに……191

第Ⅲ部　「鎖国」の形成と成立

第六章　元和九年海外交渉制限令の発令……200
はじめに……200
第一節　元和九年令の内容……203
第二節　蘭英商館員連署上申書の影響……209
第三節　キリシタン問題の先鋭化……215
（一）潜入宣教師の自白　216
（二）南欧商人グループの資金援助　220
（三）後続宣教師の情報と幕府の危機感　222
おわりに……225
第七章　日本・スペイン断交の再検討……233
はじめに……233
第一節　スペイン使節の動向……237
（一）関連史料　237

第一節　日本―ルソン貿易の成立……303
第二節　「伴天連」の来日と追放……314
第三節　「鎖国」政策の展開……317
おわりに……322

付録　翻刻・翻訳史料
一　インディアス総合文書館所蔵ルソン総督府日本関係文書（翻刻文）……328
二　一五九九年一〇月二二・二八日付、志岐発、ヴァリニャーノのファン・デ・リベラ宛書状……371

初出一覧……395
あとがき……397
索引……400